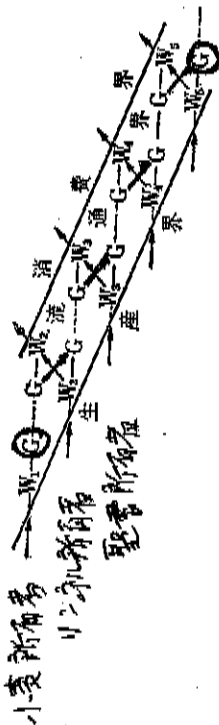


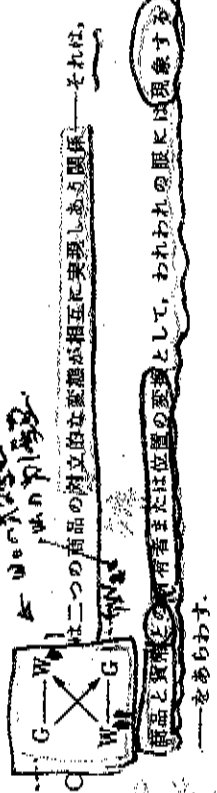
(2) の図

商品の変態と貨幣の流通

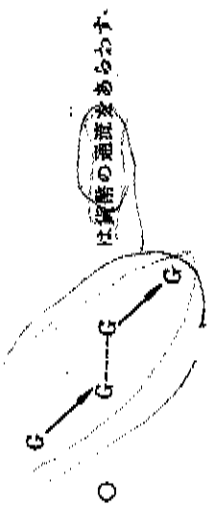
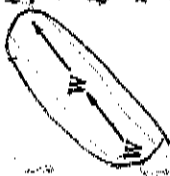


○ \rightarrow Wのうちに \rightarrow は、使用価値および価値(ただしこの場合価値はすでに価格の形態を与えられており、したがって商品は、自然形態および価値形態の二重の形態をもつて流通界にはいることが前提される)の統一物である商品が生産界から流通界にはいることを示す。後半の、.....Wの点線は、商品が流通界にはいってから販売されるまでの期間をあらわす。

○ $W-G \dots G-W$ は価値としての商品の運動——商品の変態運動——をあらわす。



は使用価値としての商品の運動——すなわちそれが、その者にとって非使用価値である販売者の手から、その者にとって使用価値である購買者の手に移り(いわゆる「社会的買料変換」)、かくして流通界から消費界に脱落する運動——をあらわす。



○ $G \dots G$ の間の点線は、販売によって得られた貨幣が購買によって支出されるまでの期間をあらわす。この期間中貨幣はいわゆる *suspendierte Münze* (休眠貨幣) あるいは *Münzreserve* (納貨幣準備金) の状態にある。貨幣の流通速度はこの期間の長さによって決定される(逆比例する)。

○ 最初の $W-G$ の上方に再び $G-W$ と書くならば、その左方に再び $W-G$ と書くねばならなくなり、かくして過程は無限に連続することとなる。これに反して、最初の $W-G$ の G を、他商品の第一変態($W-G$)の結果としての G として考えなければ、われわれは交換を流通過程の範囲外にとり出すことになる。これは、新たに生産された金と商品との交換の場合にあたる。それ以前に生産された商品としての(すなわち流通手段としてのではない)金の商品としての貨幣の交換取引であって、流通の一面ではないこととなる。

○ 最後の $W-G$ の後には $G-W$ がつづかないときは、商品の価値は G の形態で裏面することとなり、かくして商品は隠蔽貨幣になる。

○ 本図では $W-G$ は単一の $G-W$ に移行すること(すなわち商品生産者はかれの商品の販売の結果を全部一種の他商品の購買に支出すること)になっているが、実際には、一商品の第二変態は多数の $G-W$ に分裂し、多数の他商品の第一変態と交錯する。もしこの図線がうまく図形内に入り入れられたら、「流通界」と書いてある欄内の運動の全体はほぼ「商品流通」の全般をあらわすこととなるであろう。